

スカウト おおいた

第45号

2016年10月 1日 発行

日本ボーイスカウト大分県連盟

編集 県連総務委員会

今こそみせよ

スカウト精神

由布第2団 田北 陽子

平成28年4月14日、16日に起きた地震とその後に続いた多くの余震は、熊本・大分だけでなく、九州各県で大きな不安と傷痕を残した。

4月27日、まだ余震が続く熊本県菊陽に、ボーイスカウト災害ボランティア熊本活動基地が開設された。

九州各県はもとより日本中から、指導者やスカウトが災害ボランティアの基地に集結し支援をしている。その内容はがれきの片付けやブロックの片付けなど、時間経過とともに変化し、今求められている事に対応しながら続けられている。

大分県連盟からも交通網断絶の中、余震の続く過酷な状況下で多くの指導者やスカウトがボランティアに参加している。

また、九州ブロック全体での息の長い支援をするために、基地には各県連盟が輪番で常駐をして、ボランティアの受け入れや現地の要請に対応している。

ボーイスカウトの災害ボランティアは、阪神淡路大震災や東日本大震災で、一定の評価を得ている。それは自己完結型ボランティアと言われ、自分の衣食住を自分で担いで、自分で来る、自分で帰る。他の人のお世話にならずにボランティアが出来るからである。また、不安な日々を過ごす子供たちに、我々が日頃の活動で行っているゲームなどの提供ができるからだと言われている。

「そなえよ つねに」

「そなえよ つねに」はボーイスカウトのモットーである。だれの為に何を備えるのか？災害が起きても大丈夫な準備、ロープ結びや応急手当の知識や技能、自然環境の変化や、緊急事態にも冷静に対応できる観察力、強い体と精神。それらは自分の為、自分が助かる為だけではない。人のお世話ができるように、つねにそなえておくのである。それはボーイスカウトの日頃の活動で培った精神と技能の習得があるからこそ出来ることである。

大分県でも、熊本・大分の皆さんのお役に立とうと各団で募金などの行動を起こしている。これからボランティア基地に向かう計画を立てている指導者、スカウトもいる。

熊本に平安な日々が訪れることを願い、これからもできる支援を続けて行こう。

いまこそ、ボーイスカウトの力を示そう。

人のお世話にならぬよう

人のお世話をしよう

そして報いを求めぬよう

ボーイスカウト日本連盟初代総長 後藤新平

※ 熊本活動基地はH28年8月28日をもって、初志の役割を終え、閉鎖となりました。



被災地にて瓦礫等の片付けを行うスカウト(菊陽町)

救援物資搬入状況 (ボランティア基地内)

リーダー研修会 講演会

期日：平成28年5月22日
場所：明治明野公民館

「チャイルドライン活動から見える子どもたちの今」と題し、チャイルドラインおおいた代表平井貴美子さんが講演して下さいました。普段は聞く事の出来ない子供達のリアルな現状を知る事が出来ました。



熊本震災ボランティア活動



熊本ベースでの朝礼風景

今回は屋根のブルーシート押えの土嚢造りを行いました。



今回大分県連盟よりボランティアへの参加メンバー

熊本城のものすごい状態にショックで言葉のありません。



平成27年度 菊章 隼章 交付

平成28年度に菊章・隼章を取得された方々です。誠におめでとうございます

菊章

- 舛友 佑依 大分第2団
- 生野 亜門 大分第2団
- 大島 咲蘭 由布第2団
- 今熊 大介 中津第8団
- 満永 尋己 中津第8団
- 佐藤 匡輝 大分第9団
- 佐藤 唯生 大分第9団



隼章

- 木崎 豊 大分第5団



各団活動

中津第8団

ビーバー隊はカブ隊行事「ナイトウォーク」に参加しました。これは寒い時期に心身を鍛える事を目的として行われる8回の伝統行事です。今年は少し寒さも和らいだ3月14日に実施されました。27キロのコースをカブ隊は12時過ぎにダイハツアリーナー近くを出発し中津港方向へ。海岸線から中津日田道路沿いを南下し東九州道を目指しました。18時、残り13キロの距離からビーバー隊は同行。冷たい夜



風を小さな身に受けながらも愚痴は言わず黙々と歩きました。到着後はカップ麺で支援者の温もりを味わい22時に解散しました。

杵築第1団

杵築第1団の3月の隊集会は、杵築のメインストリートと名所である酢屋の坂をバックに「メジャー爺さん」によるスキルトレーニング「計測と簡易測量」を行いました。計測の基準となる自分の体の各種サイズ計測から始まり、最終的には仰角簡易計測器の使い方まで。

①歩測、②距離とともに③高さを測る技能、全3項目について行いました。

サブライズクイズ「立入禁止の植え



たばかりの芝生の面積を計測せよ！」との指令にスカウトたちは何度も同じ場所を歩き、暗算に四苦八苦しつつも元気と笑顔の絶えない集会となりました。

別府第9団

“今に見ている僕だって、何十年か経ったなら、あの杉の木か楠木か！” 発団当初に記念植樹した銀杏の樹

が、その後40年、10数メートルに成長し枝を広げている。

今期はその記念樹の下、



かがり火を囲んでの上進式・入隊式を挙行了た。

我が団の伝統である、宵闇の中で生きた火を前にして「ちかい」をたてるセレモニーに当事者はもちろん参加者全員の感激が伝わってくる。

初めてのビーバースカウトの点火式やまだ板につかない新しいユニフォームのカブやボーイ、成長し頼もしいベンチャー等、参加保護者からも高い評価を受け、40周年を迎える前提としての行事でしたが、3月末とは予想に反し4℃前後のキャンプ生活でしたが、元気に初期の目的を達することができ、さらに身も心も引き締まるスタート風景が演出されました。

由布第2団

4月24日(日)、平成28年熊本・大分地震義援金募金を、イオン挟間店で行いました。

ビーバーからベンチャーまで勢ぞろい。最初に今回の地震の話聞き、自分たちには何ができるのか、できることを頑張ろうと確認しました。毎年行うユニセフよりも長い時間の募金活動。小さなビーバースカウトには大変な



ことでしたが、弱音を吐かず、最後まで大きな声で呼びかけていました。募金をしてくださった方からは、「偉いね」「頑張っているね」など暖かい言葉をいただきました。同じ由布市内の方も被災されており、より身近に感じた募金活動。意識も高かったとようです。保護者からは「優しい気持ちを教えていただきました。」との感想が聞かれました。

被災され、辛い思いをされた方々の気持ちに寄り添えるような支援を行いたいと考えさせられた1日でした。皆様、ありがとうございました。

大分第1団



大分第1団ビーバー隊は今年2月28日に公民館での屋内活動を行いました。お題目は

調理室での調理実習。今回挑戦したのはパンケーキの作成です。見学の方も来られたので一緒に調理にチャレンジ。スカウト全員で協力して料理を作り上げました。ハンドミキサーを交代で使って生地をしっかりとき回していますが、少し重たかったか悪戦苦闘していました。結果はきちんと料理ができて全員が満足できた調理実習となりました。最後はみんなで手をあわせていただきます。ごちそうさま。後片付けもみんなでよくできました。

大分第2団

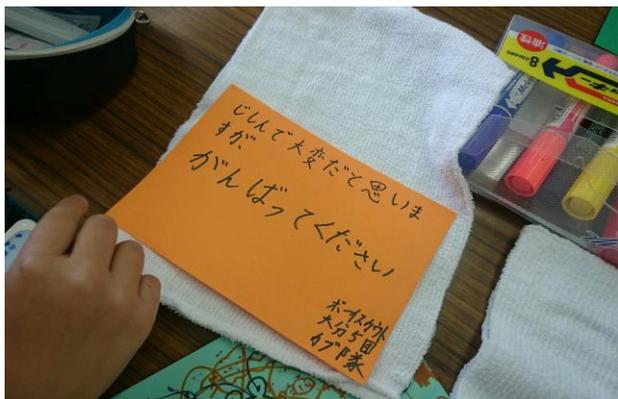
3月末に杵原神社でビーバーは新入隊式、カブは追出し、上進式、ボーイは上進キャンプを行いました。

今年も活動体験会を行い新入隊員を募っていますが、毎年各隊問わず、保護者皆様の口コミ、お友達への声掛け、又兄弟の入隊を頂き、今年も多く仲間が増えました。各隊新入隊のスカウトが入ると、先輩スカウト達は自分に弟、妹ができたかのように、お兄ちゃん、お姉ちゃん、先輩っぷりを発揮していました。

今年も多く仲間と楽しい活動をして行こうと思います。大分2団はいつも元気！！

大分第5団

熊本・大分地震で被災された方を応援しようと、ボーイ隊・ベンチャー隊が募金活動を行いました。



そんな中、カブスカウト隊でも、何か役に立てないか？そんな想いを「今、僕たち・私たちに出来ること！」をテーマに活動を行いました。

活動内容は、メッセージカード付の雑巾作り。スカウトが自分で考え、オリジナルのメッセージを書き、雑巾の中に入れていきました。針と糸の使い方を知らないスカウトもいましたが、デンリーダーや保護者の協力をいただきながら無事に完成。地域の支援団体を通じて、被災地へ届けていただきました。

大分第9団

私たち大分第9団ビーバー隊は、団本部が大分県護国神社に戻ったことから、この4月から神社の森を集会場所として元気に活動しています。広い神社



の森では、「自然の中でみんなと仲良く遊ぼう」と、あちこち散策し自然を楽しむ

ビーバースカウトの声が響いています。

みんなも自然豊かな神社の森に遊びにおいて、みんなで遊みましょう！

津久見第1団

春休み恒例の50Kmハイク(たのしいハイク)を4月2日～3日の日程で行いました。

コースは初日、竹田市役所を出発し、市内を歩きました。二日目は久住高原の爽やかな空気を吸いつつ楽しいハイクができました。

